

アドバイスの表現

If I were you, I would ~.

「私なら～します」

You should ~. 「～したほうがよい」

I think you had better ~.

アドバイスを求める表現

What do you think I should do?

「どうすればいいでしょう」

Do you have any suggestions?

「何かアドバイスはありますか」

同情の表現

I'm sorry. 「お気の毒です」

I'm sorry to hear that.

「そうお聞きしてお気の毒に思います」

感謝の表現

Thank you very [so] much.

Thanks a lot.

Thank you for ~.

Thank you for a few minutes.

「時間を割いていただいてありがとう」

I can't thank you enough.

「お礼の言葉ありません」

I appreciate it. 「感謝します」



●最初の言い方は、「ぼくならこうするけど」というひかえめな表現です。

●had betterは親が子供に「～しなさい」というような強い言い方です。アドバイスとして使うときはI thinkをつけます。shouldはhad betterより弱い言い方です。shouldを使ったほうがベターです。

●I'm sorry.は、相手に不幸があった場合や、相手が悲しい思いをしているときに同情する、最も一般的な表現です。気持ちを込めて言うことがたいせつです。

●感謝の気持ちを表すときは、ただ、Thank you.と言うだけでなく、Thank you for coming.など何に対して感謝するのかを具体的に表現したほうがよいでしょう。

●I appreciate it.は、特に何かしてもらったことに対してちょっと改まって「ありがとう」というときに使う言い方です。

謝罪の表現

Excuse me. (軽い謝り)

Sorry.

I'm terribly [awfully] sorry.

「ほんとうにすいません」

I'm very sorry to trouble [bother] you.

「ご迷惑をおかけして申し訳ありません」

I'm sorry I'm late. 「遅れてすみません」

I'm sorry to interrupt you, but ...

「話の腰を折ってすいませんが……」

I'm sorry I had to interrupt you.

「話を中断させてしまってすいませんでした」

○その返事

That's all right. 「だいじょうぶですよ」

感謝・謝罪に答える

○感謝に対して「どういたしまして」

You're welcome.

It's my pleasure.

○謝罪に対して「かまいませんよ」

Never mind. 「気にしないで」

That's all right.

○両方に

No problem. 「気にしないで」

Don't worry.

That's O.K.

Not at all.



●Excuse me.は、①軽い謝りとしての「すいません」と、②人に何かたずねるときなどの「あの、ちょっと」という2つの用法があります。アメリカ英語では①、イギリス英語では②の意味で使うことが多いようです。

●I'm sorry I'm late.は約束の時間に遅れてきたときなどに使います。I'm sorry to be late.と言わないように注意しましょう。

●You're welcome.は、相手の感謝の言葉に対して「どういたしまして」と言うときに使います。謝罪の言葉に対しては使わないので注意してください。

同意・賛同の表現

I think so. 「私もそう思います」

I quite agree with you.

「あなたの言うことに賛成です」

I agree a hundred per cent.

「まったく同感です」

That's right. 「その通りです」

You're right. 「あなたの言う通りです」

That's a good [great] idea.

「いい考えですね」

That sounds like a good idea.

「いい考えのように思います」

That sounds interesting.

「おもしろそうね」

So do I. (私も同じと言うとき)

Neither do I.

(相手が否定文の形で意見を述べたときに自分も
そう思いますと相手に賛成する場合です)

Well, maybe. (賛同の度が弱い)

Well, possibly. (賛同の度が弱い)

不賛成の表現

I don't think so. 「私はそう思いません」

I don't agree with you.

「賛成できませんね」

Do you? I don't.

「そう思うんですか。私は思いませんね」

Not, really. 「必ずしもそうではないですね」

I wouldn't ~. 「私ならそうはしません」



● quite は意味を強める言い方です。いろいろな場面でよく使われるので覚えておくとう便利です。

● That's a good idea. は、提案などに賛成するときに使います。

● sound は、聞いてそういう感じがするという控えめなニュアンスを表します。

● So do I. と Neither do I. は、対にして覚えましょう。So do I. が相手の肯定文について用いるのに対して、Neither do I. は、相手の否定文について用います。

● well という語は、ためらう気持ちを表現しています。

● Not, really. は、相手の言ったことが、近いけれども完全にその通りではないというときに使います。自分がそのことについて正確なことを知っているわけですから、Not, really. と言ったあと、正確なことを教えてあげる必要があるでしょう。

了解の表現

Sure. 「いいとも」

Certainly. 「もちろんです」

Of course.

I see.

I see what you mean.



● Sure. は、許可を求める表現や依頼の表現に対して「いいですよ」と言うときに使います。Certainly. は特に店の店員がお客に対して言うときによく使われます。

● I see. は、相手の説明に対して納得がいったときなどに用います。

断りの表現

I'm sorry, but ~. (後ろに理由をつけます)

I'm sorry, but I can't help you.

Well, actually ~.

(返事をしぶる感じ)

Thank you very much. I'd love to, but

I've got to ~.

「ありがとうございます。したいんですが～しなければならいんです」(誘いを断る場合)

Thanks for asking, but ~.

「お誘いいただいてありがとうございます。でも……」

I'm afraid not. 「残念ですけどだめです」

I'm afraid ~. 「悪いけど……」

義務の表現

You must ~.

You ('ll) have to ~.

You've got to ~.

You need to ~.

You're supposed to ~.

「あなたは～すべきなのです」

● must と have (got) to の違いは、must が話し手が義務だと感じていることを示すのに対して、have (got) to は、他から課せられた義務であることを示します。will をつけると丁寧になります。

